シリーズ 人・ひと

サポーターいっちゅう コーディネーター 石川 正浩さん

今回は、サポーターいっちゅう(一身田中学校学校支援地域本部)でコーディネーターとして、一身田ナイトスクールなど子どもたちの学びを支援している石川正浩さんにお話を聞きました。

一身田ナイトスクール(学習支援･地域教育力向上支援)の活動について教えてください。

「ナイトスクール」はサポーターいっちゅうの取り組み(学習支援･キャリア教育支援･生徒会活動支援・地域教育力向上支援)の一つです。教員ＯＢを含めた地域住民や三重大学の学生、サポーター登録者･運営委員が学びの場に寄り添うサポーターを務め、生徒の質問に答えたり、プリントの添削をしたりしています。

私が活動を始めようと思ったのは、ＰＴＡや子ども会、学校の先生方がとても疲れているように感じ、地域の大人として何か支援できることはないかと思っていたとき、当時の校長先生から学校支援地域本部の起ち上げのオファーをいただいたのがきっかけです。そして、平成20年に「サポーターいっちゅう」を組織し、事業を進める中で連携担当の先生方と協議し「ナイトスクール」の活動が実現しました。

活動をしていてうれしかったことは何ですか？

まちで子どもたちに声を掛けられるようになったことです。自分たちの子ども時代は、地域の人から声を掛けられることがよくあったのですが、最近はそのような関わりが地域の中で少なくなってきたように感じます。学校･地域･家庭の関係が希薄になりつつある中、サポーターいっちゅうの事業で関わってきた子どもたちから声を掛けられると、地域のつながりが感じられ、とてもうれしく思います。

これまで８年間ナイトスクールの活動を続けてこられましたが、大変なことって何ですか？

今一番難しいなと思っていることはサポーターの確保です。子どもたちのニーズは継続的にありますが、それをサポートするサポーターの数が減ってきました。この活動を無理せず、細くとも長く継続していくことが大切だと思っています。

私自身は、いろいろな人と一緒に活動できて、自分も楽しんで行っています。コーディネーターとして、やってあげているではなく、子どもたちと一緒に自分ももう一度学んでいるという思いで活動を続けていきたいと思います。「子育て・子育ち・親育ち」の実践ですね。新しい人にもどんどん参加していただきたいです。

最後に一言お願いします。

学校は地域コミュニティーの中心であり、地域の中の一つの場であると思います。だからこそ、地域で子どもたちを多方面から支え、学校・地域・保護者(家庭)がつながる「地域立の一身田中学校」、まさに開かれた学校づくりを実践していきたいと考えています。親でもない、先生でもない、地域のおっちゃん、おばちゃんが学校の子どもたちや先生方と協働し触れ合っていく中で、地域教育力の向上、ひいては地域力の向上を目指していきたいです。

一身田ナイトスクールの様子

参加する子どもたちの声から

- 家ではなかなか集中して学習できませんが、ここでは友達と一緒に集中して学習することができます。
- わからない所はサポーターの人に気楽に聞くことができます。最後まで丁寧に教えていただいてうれしかったです。
- 友達やいろんな人とたくさん話ができるところがいいです。